

「視線」「視点」と「目線」

嶺 田 明 美

1. はじめに

「目線」という語が一般に使われるようになっている。戸板(1986)に、「役者が演技中に、月を見あげたり、山を眺めたりする時の、目のつけどころを『目線(メセン)』という。視線とはいわない」とあり、「目線」はもともと舞台演劇やテレビドラマなどの演技者が目を向けて見る方向や位置の意で用いられていた。それが次第に、金田一(2006)の指摘するように、テレビを通して一般に広がったといえよう。「目線」が一般にどのような意味や用法で用いられているかを、類義の意味用法を持つ「視線」「視点」と比較しながら、実際の用例をもとに考察したい。用例の収集は、新聞、一般書籍、雑誌、インターネットなどから行った。

2. 使用され始めた時期について

一般に使用され始めた時期について言及するのは難しいが、辞書の見出し語として採用された時期を目安に考えてみたい。辞書も個々で違いがあるが目安として参考になると考えた。ほかと比べて、比較的早い時期から見出し語が掲載されているのが、三省堂と旺文社の辞書である。

◆三省堂

『国語辞典』

第1版(1960)・新装版(1968) 掲載なし

第2版(1974)・第3版(1982)・第4版(1992) [演劇・テレビなどで] 視線。「一があう・一をはずす」

『明解国語辞典』改訂版(1952) 掲載なし

『新明解国語辞典』(以下『新明解』)

第1版(1972)・第2版(1974)・第3版(1981) 「視線」の意の俗語的表現

第4版(1989)・第5版(1997)・第6版(2005) [舞台・映画撮影などで] 演技者やモデルなどの目の向いている方向・位置・角度など。[(俗に)「視線」の意でも用いられるが、「目線」は目の動きに応じて顔も動かす点が異なる]

『国語辞典』は第2版(1974)から、『新明解』では初版(1972)から見出し語として採用されているが、演劇の用語であり、「視線」の意味で掲載されている。『新明解』第4版(1989)からは、意味も詳細に掲載されている。

◆旺文社

『国語辞典』

増補版(1960)・中型新版重版(1965)・改訂新版(1970)・新訂版(1973) 掲載なし

新版(1980)・新版重版(1981)・第8版(1992)・第9版(1998) 視線。(映画・演劇などの世界で多く用い

る。)

他の出版社の辞書では1990年代からの版に見出し語として採用されているものが多い。

◆岩波書店

『岩波国語辞典』

第1版(1963)・第2版(1971)・第3版(1979)・第4版(1986)掲載なし

第5版(1994)・第6版(2000) 目の見る方向。視線。映画・演劇界で使われて広まった語。

『広辞苑』

第2版(1969)・第3版(1983)掲載なし

第4版(1991) 視線。もと、映画・演劇・テレビの語。

◆角川書店

『角川国語辞典』

第1版(1956)・改訂版(1961)・愛蔵版(1969)・新版(1982)掲載なし

『角川必携国語辞典』初版(1995)「視線」の俗な言い方。「一が合う」▽おもにテレビや映画界でいう。**使い分け**

「まなざし」を見よ。(使い分け:「視線」は見るものと見られるものが一つとなる線。「視線が合う」。「まなざし」は感情がこめられた目の向く方向。その目のようす。「熱いまなざし」。「目線」は「視線」と同じ。映画やテレビなどの出演者が使う。「目付き」は、目の光や形があらわすその人の性質。多く、よくない意味で使う。「目付きの悪い男」。)

『常用国語辞典』改訂第3版(2006) 視線。

◆学習研究社

『常用国語辞典』新版(1983)掲載なし

『学研現代新国語辞典』

初版(1994)・第3版(2002) 視線②(視線②: [ものを見るときの] 目の方向・むき。「一が合う」「一をそらす」)

『学研現代標準国語辞典』(2001) 目が見ている方向。視線。**用法** 多く映画・テレビ・演劇などで使う。

◆講談社

『講談社国語辞典』

改訂増補版(1972)・新版(1982)掲載なし

第3版(2004) 視線。特に演劇などで使う。

『デスク版講談社国語辞典』第2版(1994) 視線。特に演劇などで使う。

◆新潮社

『新潮国語辞典—現代語・古語—』初版(1965)・『改訂新潮国語辞典—現代語・古語—』(1974)掲載なし

『新潮国語辞典—現代語・古語—』新装改訂版

第1版(1982)掲載なし

第2版(1995) [俗] (演劇・映画などの用語) 視線。

◆大修館書店

『新国語辞典』第21版(1982)掲載なし

『明鏡国語辞典』第1版(2002) ①映画・演劇などで、演技として行われる、目の方向や位置。「一をもう少し下げてみよう」②物事を見る場合の、目の占める方向や位置。「犯人と同じ一で物を見ている」③ [俗] 視線。「一をそらす」「背後に一を感じる」

演劇などで使う語であることや「視線」と同じ意味であることを記述した辞書が多い。三省堂の辞書のように1970年代の出版から見出し語がある辞書もあり、この頃にはすでに、演劇などの語から一般の語として使われ始めていたと考えられる。しかし、意味の記述が詳しくなるのは、『新明解』では第4版(1989)以降の版、岩波、角川その他では1990年代からであり、1980年代辺りから一般に広がり定着したと考えてよいのではないかと思われる。「朝日新聞」の見出しは、1981年11月22日「目線 教室の風景」が最初である。

3. 意味

「目線」の意味について、類義の「視線」「視点」の意味を明らかにしたうえで比較しつつ考察する。

* 用例のあとの()は資料名である。新聞資料のあとの数字は、記事掲載の西暦・月・日を表している。

3-1. 「視線」の意味

「視線」の意味について例をもとに次の三つに分けた。

3-1-1. 目と見ている事物を結ぶ線

例1～例3は、目で見ている事物や人物とを結ぶ線の意で用いられている例である。

例1) 閣議にも重苦しさ 宮沢首相と羽田蔵相、視線を合わせず(朝日 92.10.23)

例2) 視線釘付け 「ヨーヨーの日」、幕張メッセで催し(朝日 98.4.5)

例3) 急に、犬は視線をそらせ、うなじを下げると、何事もなかったようにのっそり立去って行った。
(砂の女)

また、次のように、目と事物を結ぶ線の目の位置の高さを表す例もあった。このような例は「視線」の用法としてはあまりなく、見出しに「目線」が使われていることから、「視点」と混用された「目線」とさらに混用されたとも考えられる。

例4) (パリの)騎馬警備隊高い目線で監視〈見出し〉馬の上で視線が高いことを利用して、塀越しに邸宅内をきょろきょろ(朝日 01.8.16)

3-1-2. 見る対象への関心や態度を示す

「目線」の項でも述べるが、例5～例7は見る対象への関心を、例8は五輪に出場するという目的を見据えているということで、関心の向かう先を示している。

例5) マイクロソフトに排除勧告 独占商法に厳しい視線(朝日 98.11.21)

例6) 未公開株市場に熱い視線 専門会社説明会に証券70社、活路求める(朝日 97.5.3)

例7) そんなおじさんたちが、再び大型オートバイに熱い視線を送っているという。(読売 07.3.22)

例8) 視線は五輪切符 高岡ら、自然体を強調 明日福岡国際マラソン(朝日 03.12.6)

3-1-3. 物事を見るときの立場・目のつけどころ

例9～例11は「[人物]の視線」の形で、その人物が物事を見るときの目の立場や目のつけどころを表している例である。これらは、「視線」には本来なかった意味で、「視点」と混用されているものではないかと考えられる。

例9) 青森市 エネルギー政策、国民の視線を(朝日 00.2.2)

例10) ボランティアの視線生かせ IOC改革への提言(朝日 99.12.18)

例11) 自分の視線でしか世界を見られないこれまでの一人称の語りを手放し、三人称で夕子という女性を外から見ようとしたことだろう。(読売 07.3.11)

3-2. 「視点」の意味

「視点」は、『新明解』（第5版）では、「物を見る立場」とある。『広辞苑』（第5版）では「視線の注がれるところ。また、ものを見る立場。観点」とある。用例を見ても、ほぼ同じ意味が確認できる¹。

3-2-1. 事物を見るとき目の位置

例12は、テーブルの下にもぐると子どもと同じぐらいの目の高さになる、ということで、実際に事物を見るとき目の位置が物理的に低いことを表している。その低い位置から視線の向かう対象を示す点と捉えるならば、次の3-2-2と意味として重なる。

例12) リクオに手を引かれて一緒にテーブルの下にもぐりこむと、この視点というのはすっかり昔に置いてきてしまったもののように感じられて、コドモ気分になれる。(コドモ界の人)

3-2-2. 視線の向かう先の対象や場所などを示す点

例13は、吉田修一著『悪人』の書評である。小説でどこに視線が向いているかが説明されている。

例13) 小説は鳥瞰から始まる。一中略—10頁め。視点は福岡にいる男の娘の周囲に移動する。いつの間にか視点は国道を走行するものとなる。4頁め。視点はぐっと一人の男に近づいてゆく。視点が男に据えられるのはほんの3頁ほどである。一中略—小説の視点はそれら様々な人々の周囲を、ある時はざっくりと、ある時はなめるように、移動していく。(読売 07.4.8)

次の2例はいずれも「[対象]への視点」の形で、視線の向かう先を示している。

例14) 偏見はないか、弱者への視点 (朝日 89.1.25)

例15) アジアへの視点欠いた「海の夕映え」 (朝日 92.8.6)

これらは、視線がどこに向けられているか、その視線の向かう先となる対象や場所などを示している。「焦点」に近い意味であるとも言えよう。3-2-1のような個々の実際の目で見るという意味は薄れ、3-2-3で述べる「物事を見るとき立場・目のつけどころ、観点」にも通じる用例である。

3-2-3. 物事を見るとき立場・目のつけどころ、観点

例16～例21は、物事を見るとき立場や目のつけどころや観点を表している。

例16) 自分だけの視点を映像に 93 全日本ビデオコンテスト作品募集中 (朝日 93.7.14)

例17) 女性の視点や考え方を勉強したい。(日経 07.4.3)

例18) さまざまに語られている「格差社会」論議だが、一つ、大事な視点が抜け落ちているのではないか。(朝日 06.11.8)

例19) 三島の人・作品に新視点 生誕80年、没後35年 神奈川で展覧会 (朝日 05.4.27)

例20) 「クラブは不潔、ふしだら」の視点だけではなく、「そこに、いったいなにがあるのか」を深く話し合う機会を持てはいかがでしょうか。(読売 07.3.30)

例21) “ダメ人間”を温かな視点で描くのが鈴木喜劇の持ち味。(読売 07.3.28)

3-3. 目線の意味

3-3-1. 「視線」との重なり

「目線」は「視線」の意味で演劇などに用いられるということから、まず「視線」と重なる意味から見ることにする。

「3-1-1. 目と見ている事物を結ぶ線」という意味では、

1 『新明解国語辞典』では「物を見る立場」のほかに、「[絵画の遠近法で] 人の視線と直角をなす、地平線上の仮定の一点」、『広辞苑』でも「絵画の遠近法で、画面と直角な視線が画面と交わる点」という意味もそれぞれ掲載されている。

例 22) 相手から目線をはずしてはいけない。(トラブル交渉術)

例 23) カメラに目線を向け、口元を緩めた。(朝日 07.9.18)

例 24) なんか背中に目線がきてるって思ったら、お店の人が見てた (20 代女性発話 07.2.7)

のような例があった。これらはいずれも「視線」に言い換えられる例である。

また、目を持たない物が見ているような用法も「目線」にはあった。

例 25) チューリップの目線からはこんな光景が見えるんですね²。(ブログ 1)

「目線」と「視線」の違いについて、金田一 (2006) には「目線」というのは、目の向いている方向であり、「視線」というのは見ている方向のことなのだろう、とある。また、次のような例もある。

例 26) 視線が合わないことには目線で指導できない。一中略— 視線も合うようになった。子どもたちから目を離さないように意識することができるようになった。という段階まできたら次は目線の配り方である。一中略— 目線を配ることではいろんなことができる。たとえば、「ほめる」「叱る」「認める」「戒める」などだ。(授業研究 21)

例 26 をみると、「視線」は目と子どもを結ぶ線で単に見ていることをしめし、「目線」はそこに何らかの感情が込められている目と子どもを結ぶ線であると解釈できる。『角川必携国語辞典』には、「視線」と「まなざし」の違いについて、「視線」は「見るものと見られるものとが一つとなる線」で、「まなざし」は「感情がこめられた目の向く方向」とある。これによれば、「目線」は「まなざし」に近い意味を持つと考えられる。何らかの感情が込められた「目線」の意味では次のような例もあった。

例 27) (モデルが) 瞳がより大きく見えるコンタクトレンズを装着して、勝負目線を披露 (スポニチ)

「3-1-2. 見る対象への関心や態度を示す」という点では、

例 28) 歌舞伎俳優の坂東玉三郎さん 目線はアジア〈見出し〉歌舞伎を問えば問うほど目線がアジアに向いていく (朝日 92.5.22)

例 29) エリート街道を歩みながら、目線は障害者や外国人、女性など社会的弱者へと向けてきた (読売 07.3.28)

などの例がある。「3-1-1. 目と見ている事物を結ぶ線」ではあるが、実物を見るというよりも、対象をどのように見るかのほうに、重点が置かれている表現と捉えることができよう。これらも、「視線」と同じように、「物事を見るとき立場」にも通じる用例である。

また、特に「熱い」+「視線/目線」の形では用法に違いがみられた。

「熱い視線」については、

例 30) 浜崎あゆみに熱い視線 SF 的イメージ先行 不思議。人間なのに。(朝日 99.11.10)

例 31) パラリンピックに熱い視線 障害者スポーツ誌創刊 (朝日 00.7.22)

のように、目と事物を結ぶ線を意味してはいるが、個人がそのものを見ているわけではなく、世間一般的にその物事への関心の度合いが高いことを示している。

一方、「熱い目線」は、新聞記事には用例がなかったが、インターネットのブログには数例あった。

例 32) ワゴンを押すおばちゃんに熱い目線を送るのだ!³ (ブログ 2)

例 33) ユウユウさんが熱い目線を送っているのはベビーカー。⁴ (ブログ 3)

2 チューリップの花の高さから空に向けて撮った写真の解説。

3 香港で飲茶ワゴンを自分のテーブルに呼ぶ方法について書かれたブログ。

4 レッサーパンダのユウユウがベビーカーを見ている写真の解説。

例 34) 私たち以外にも静かな熱い目線でドゥオーモを見上げる人、みつけた！⁵ (ブログ 4)

例 35) 思わず乗り降りする度に熱い目線を送ってましたヨ。⁶ (ブログ 5)

これらは、抽象的な意味ではなく、個人が実際に対象を見ており、見方に「熱い」感情を込めていることを表しているものである。その点では、「3-1-1. 目と見ている事物を結ぶ線」に分類されるものであるかもしれない。「熱い視線」には個人⁷と世間一般の見方の両方の用法があるが、「熱い目線」は個人の目で見える用法しか現在のところはなく、違いをあげることができる。「熱い」は「視線」を修飾する結合度が高く、「目線」は「視線」と混用されて、その意味範囲に入り込んできたために、形の上では散見するが、意味は「目と物事を結ぶ線」の範囲内で使用されている段階であろう。なお、熟語の「熱視線」は新聞や小説などには見られたが、「熱目線」は用例になった。

3-3-2. 「視点」との重なり

まず、「3-2-1. 事物を見るとき目の位置」の意では、

例 36) 現実ですらりと背が高くなった女性たちが 15 センチもかさあげするような靴をはく。目線さえも男性に近くなった。(朝日 96.9.12)

例 37) 目線は同じ高さに〈見出し〉人が座っている座敷に入ったら、自分も座り同じ目の高さになってあいさつしたいですね。(朝日 99.8.1)

例 38) 水澤洋二さん(車いすビリヤード選手)低い目線克服し、夢はトッププロ〈見出し〉身長は 178 センチ。車いすに座ると 140 センチ。この目線の差がとてつもなく大きかった。一中略—最初は 40 センチ低くなった目線に苦しめられた。(朝日 04.6.26)

などのような例があった。これらはいずれも、「3-2-1. 事物を見るとき目の位置」と同様に、物理的な目の高さを表している。しかし、「視点」は視線の向かう対象を点として捉えるところにポイントがあるのに対して、「目線」は目と見ているものを結ぶ線のほうにポイントがあると思われる。

「3-2-2. 視線の向かう先の対象や場所などを示す点」という意味では、「視線」との重なりであげた「目と見ている事物を結ぶ線」の用例とともに、次のような例があった。

例 39) 大型機消え「すべてパソコンに」ソフトの両雄が提携し将来に目線(朝日 94.9.39)

例 40) (俳優は)会見中もどこに目線をもっていくべきか困っていた。(シネマトゥデイ)

「視点」と「目線」は、どちらも視線の向かう先の対象や場所を表してはいるが、「視点」は、視線の向かう先を示す「点」であるのに対して、「目線」は目と対象とを結ぶ線という意味のほうが強い。

「3-2-3. 物事を見るとき立場・目のつけどころ、観点」の意では「目線」には多くの例があった。

例 41) 社会の出来事を私の目線でとらえ、伝えられるようなテレビ人になれたらと思うし、一以下略—(朝日 94.1.29)

例 42) 患者の目線で祖父の耳掃除(朝日 02.5.9)

例 43) 日常の目線で投資先決める 真壁昭夫 資産運用 AtoZ(朝日 04.6.5)

例 44) 幕末の京都を舞台に、女たちの目線から見た新撰組の浪士たちを描く。(朝日 07.9.17)

これらは、「視点」と置き換えることができる。「目線」は「視点」との混用であり、「視線」との重なりというよりも、「観点」の意味の「視点」と重なるところが大きい。

5 フィレンツェのドゥオーモを見上げるようにしている像の写真の解説。

6 中国北京のバスのミラーが日本と異なる形状をしているのに注目したブログ。

7 個人が対象に対して用いた例は、「30代女性が松井に熱い視線? 米大リーグ(朝日 03.3.28)」など。

形は、「[人物]の目線」が比較的多い。「目線」が「高い・低い・同じ」などとともに用いられて、立場の高さを表すような用例も見られた。

例 45) 目線を低く構えて「何が起きたか」だけでなく、「なぜ起きたか」を問いかけていかねばならない。
(朝日 93.12.25)

例 46) 村山富市首相は、被災地の見舞い方がおざなりだった、という悪評に「ちょっと目線が高かったかのお」と気にしているという。首相の人柄からすれば、被災者への同情心が乏しいはずがない。が、この目線という問題、低すぎてもわざとらしいし、難しい。(朝日 95.2.24)

例 47) 他人を上から見下ろすような「上から目線」も嫌になってきた。(朝日 07.3.17)

例 48) 不登校、同じ目線で語ろう 青少年育成協が「経験者」の相談員募集(朝日 01.4.16)

例 49～例 51 のように「物事を見るときの立場」から派生して、見方や考え方の範囲、つまり「視野」の意味でも「目線」が用いられていた。

例 49) 「この人目線が低いなあ」と感じるのは、主にその人の関心ごとが、その人の業務領域に閉じていて、部分最適的な話になっているときである。つまりその人の見ている視野が今の職域からの視野になっていて、全体的な視点に立っていない —中略— ときである。(株インヴォニオ)

例 50) これからのマーケティングは目線を広げないとやっていけない(60 代会社経営者の発話 07.2.13)

例 51) 目線が現場や自分の組織に行き続けても駄目なんです。—中略—目線を広く、社会に向けなければ、せっかくの活動も意味がないように感じています。(週刊宮城 up 通信)

例 49 はひとつの談話の中で「目線」を「視野」「全体的な視点」というようにほぼ同義に用いている。例 50・例 51 は「目線」を「広げる」「広く」と表現している。「視点」の意味での「目線」は「広げる」ことはできないため、これも「視野」の意味で用いているものと思われる。「目線」が一般の中に定着し、新たな意味を付加して使われ始めていると考えられる。

4. まとめ

「目線」は、旺文社『国語辞典』、『岩波国語辞典』、『角川必携国語辞典』、『講談社国語辞典』、三省堂『国語辞典』などのように、辞書では「視線」と同義として記述されるものが多い。しかし、「目線」は「視線」と用法の違いも見られ、「視点」との意味の重なりや、「まなざし」の意味で使われることもわかった。また、「視線」も「目線」と混用が起こり、さらに「視点」と混用されているようである。

「目線」はテレビのことばが 1980 年ごろ一般に広がった語ではあるが、小学館の小・中学生向けの辞書『学習国語新辞典』第 1 版(1959)・改訂版(1962)・改訂新版(1969)・新版(1975)・常用新版(1992)・全訂第 2 版(2006)には見出し語として掲載されておらず、また、『CD-ROM 新潮文庫の 100 冊』を検索しても、これに所収されている小説では使用されていない。使用する人とそうでない人があり、どのような人が使用するのか、またどのような場合に「目線」を用いるのかということについては今後の課題である。

〈参考文献〉

金田一秀穂(2006)「日本語チェック」日本経済新聞夕刊 5 月 9 日
戸板康二(1986)『楽屋のことば』駸々堂出版

岩波書店『岩波国語辞典』第1版(1963)・第2版(1971)・第3版(1979)・第4版(1986)・第5版(1994)・第6版(2000) 西尾実ほか編/『広辞苑』第2版(1969)・第3版(1983)・第4版(1991) 新村出編
 旺文社『国語辞典』増補版(1960)・中型新版重版(1965) 鳥居正博編集責任, 改訂新版(1970)・新訂版(1973)・新版(1980)・新版重版(1981) 守随憲治ほか編, 第8版(1992)・第9版(1998) 松村明ほか編
 角川書店『角川国語辞典』第1版(1956)・改訂版(1961) 武田祐吉ほか編, 愛蔵版(1969)・新版(1982) 久松潜一ほか編/『角川必携国語辞典』初版(1995) 大野晋ほか編/『常用国語辞典』改訂第3版(2006) 石井庄司編
 学習研究社『常用国語辞典』新版(1983) 石井庄司編/『学研現代新国語辞典』初版(1994)・第3版(2002) 金田一春彦編/『学研現代標準国語辞典』(2001) 林義雄ほか編
 講談社『講談社国語辞典』改訂増補版(1972)・新版(1982) 久松潜一ほか監修, 第3版(2004) 飯倉篤義ほか監修/『デスク版講談社国語辞典』第2版(1994) 飯倉篤義監修
 三省堂『国語辞典』第1版(1960)・新装版(1968)・第2版(1974) 金田一京助ほか編, 第3版(1982)・第4版(1992) 見坊豪紀ほか編/『明解国語辞典』改訂版(1952) 金田一京助監修/『新明解国語辞典』第1版(1972)・第2版(1974)・第3版(1981) 第4版(1989)・第5版(1997)・第6版(2005) 山田忠雄ほか編
 小学館『学習国語新辞典』第1版(1959)・改訂版(1962)・改訂新版(1969)・新版(1975)・常用新版(1992)・全訂第2版(2006) 金田一京助編
 新潮社『新潮国語辞典—現代語・古語—』初版(1965)・『改訂新潮国語辞典—現代語・古語—』(1974)・『新潮国語辞典—現代語・古語—』新装改訂版第1版(1982)・第2版(1995) 久松潜一監修
 大修館書店『新国語辞典』第21版(1982) 石井庄司ほか編/『明鏡国語辞典』第1版(2002) 北原保雄編

〈資料〉

- ・新聞資料……朝日新聞および朝日新聞データベース「聞蔵Ⅱ」, 日本経済新聞, 読売新聞
- ・一般書籍……安部公房(1981)『砂の女』新潮文庫(『CD-ROM 新潮文庫の100冊』1995), 石坂啓(1999)『コドモ界の人』朝日新聞社
- ・雑誌……『授業研究 21』2006. 11月号 明治図書, 『My Lounge』No. 6 2007. 6 エル・アイ・ビー
- ・インターネットサイト
 (株) インヴォニオ 土井哲氏の記事 <http://leadership.insight.jp>
 シネマトゥデイ <http://cinematoday.jp>
 週刊宮城 up 通信 <http://miyagiup.space.live.com/blog/cns!BF8F1FAF6B7D28C!70.entry>
 スポニチ スポーツニッポン <http://www.sponichi.co.jp> 07. 8. 2
 トラブル交渉術 日経ソリューションズ <http://itpro.nikkeibp.co.jp>
 ブログ1 <http://photofriend.jp/photod/414002/>
 ブログ2 <http://blog.goo.ne.jp/gogo-komono/e/efdc3b7fd09723bfa970aa609f483p>
 ブログ3 <http://zoo.from.tv/lpl/sbcgi?eid=465>
 ブログ4 <http://plaza.rakuten.co.jp/cicomilano/diary/200705250000>
 ブログ5 <http://taroru.main.jp/cbi-bin/diary/diary.cgi?mode=comment&no=129>

(みねだ あけみ 日本語日本文学科)